

花のめしへとおしへ

5年生理科 単元4. 花のつくりとはたらき、節2. 花粉のはたらき（教科書 東京書籍 p.59～62）に受粉実験が掲載されている。実験ではヘチマが用いられているが、アサガオでも実験できると追記されている。花のつくりからヘチマを利用するとなっているが、アサガオでも実験できる。しかし、花によって雌雄を区別できるヘチマの方が実験は分かり易い。花によってめしへ、おしへの区別ができるからである。同じ根から生えているが、花で雌雄区別できる植物を「雌雄異花」という。アサガオのように一つの花におしへとめしへの両方がある植物を「雌雄同花または両性花」という。ここで簡単に植物の花の雌雄から分類する言葉を整理しよう。

植物の雌雄について

- 植物には雌雄性を示す両性花・雌花・雄花の3通りの花があり、これらが個体上に配列される。
- 個体の性型には、同種の全個体に雌雄の器官が配列する性的同型（同株）と、個体により雌雄のいずれか一方に限定される性的異型（異株）がある。

教科書には「異株」（性的異型）は出てこないので、詳細略す。

「同株」には5型があるが、教科書に見られる両性花と雌雄異花を紹介する。

1. 両性花

1つの花にめしへとおしへが配置されている両性花だけをつける個体であり、アサガオなど多くの種類がこれに属する。

2. 雌雄異花

1個体上に雌花と雄花を持つ。ブナ科、ウリ科の多くの種、ベゴニアなど。

例えば、野菜としてお馴染みのキュウリ、カボチャ、スイカ、野草ではヘチマ、ユウガオ、カラスウリなどがあります。ブナ科のクリ、コナラ、クヌギ、カシの仲間。カバノキ科のハンノキ、シラカバ、シデの仲間、マツ科のマツなど、ヒノキ科のスギなど、イチイ科のカヤなど沢山ある。

なお、イチョウは木によって雌雄が異なるので雌雄異株になる。